

カンガルーシップ活動  
ネイバーサポートプロジェクト  
実施報告書

報告日 平成29年2月24日  
学校名 岐阜大学教育学部附属学校  
PTA会長名 末武 悟

実施概要	実施活動名	教養委員会・特別支援教育委員会 合同企画 教養講座
	実施日時	平成28年12月19日
	実施場所	岐阜大学教育学部附属学校大会議室
	実施目的	重度知的障害と自閉症のある妹の一つの家族のドキュメンタリー映像をみて共生社会のあり方を考える
	実施内容	映画「ちずる」上映、赤崎正和監督による講演会
	実施方法	全家庭に教養講座の案内とパンフレットを配付し、保護者の参加を募った
	参加人数	保護者、教職員約 70名

報告事項	内容	<p>「障害のあるなしに関わらず、共に暮らす社会を築き上げるために、一つの家族の日常風景のドキュメンタリー映像を通して、今私たちにできることを一緒に考えて理解を深めていきたい」</p> <p>重度の知的障害と自閉症のある妹・ちずるとその母の姿について、言葉で伝えるかわりに、監督でもある兄が一年に渡り撮り続けた家族のドキュメンタリー映像を鑑賞した。</p> <p>また鑑賞後、監督でもある兄の赤崎氏をお招きし、家族との関係、精神面や想い、今後の願いを撮影時のお話を交えた講演会を行った。</p> <p>鑑賞、講演後参加者の皆さんにアンケートを実施した。</p>
	結果	<p>通常学級、特別支援学級の関係なく、映像、講演会を通して参加された皆さんに、大変真剣にみてくださっていた。</p> <p>多くのアンケートをいただき、「障がいのある妹の兄の気持ちがよくわかった」「とてもひきこまれる深いものがあった」など、これからの向き合い方や社会的理解、支援を深める機会となった。</p> <p>感想は、別紙に紹介する。</p>
	所感	<p>昨年に引き続き、共生社会への理解を深めていくために今年度も映画上映と講演会を実施した。保護者の多くの方々から大きな反響や、共感するお声をいただいた。</p> <p>障害あるなしにかかわらず、ともに暮らす社会づくりとして、お互いが寄り添ってかかわることができる機会となった。</p> <p>今後も継承していきたい。</p>



添付書類

参加感想、収支決算報書、領収書添付用シート

提出日 平成 29 年 2 月 24 日

学校名 岐阜大学教育学部附属学校

## カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想

### 「映画上映会に参加して」

- ・ 自閉症児を含め、障がい児がいる家庭の大変さがよく描かれている作品だった
- ・ 自閉症の事が少しわかった
- ・ とても引き込まれる作品だった
- ・ 障がい＝大変というイメージだったが、普通の家庭と一緒に笑顔、喧嘩ありだと思った
- ・ はじめはとてもびっくりしたが、家族が真剣に向き合っていてすごいと思った
- ・ ありのまま包み隠さずだから伝わるものがあった
- ・ 子供達にも観てほしい作品だと思った
- ・ 物にこだわる、癩癩をおこすということが少し理解できた
- ・ お母さんの器の大きさに感心した
- ・ 正直なにも言えない、と言うのが素直な感想

### 「映画監督の講演会に参加して」

- ・ 障がいのある妹を持つ兄の気持ち（兄弟の気持ち）がよくわかった
- ・ 妹のことが可愛いんだとすごく良くわかった
- ・ 映画への思い、成長過程が知れて良かった
- ・ 家族の向き合い方について考えさせられた
- ・ とても深いと思った
- ・ 共感できること、気が付いたことがあった
- ・ 全体的に興味深い内容でとても良かった
- ・ 映画撮影後の話も聞けて良かった

### 「今回活動に参加して以前と変わった点」

- ・ 障がいのある方、ある子をどのようにフォローするか考えようと思う
- ・ 子供の将来について今から考えようと思う
- ・ 自分も心の底では差別していたんだと気づき、恥ずかしくなった
- ・ 家族と向き合おうと思った
- ・ 障がいは個性と思えるようになった
- ・ 自分ももっと知りたいし、子供も養護学級（特別支援学級）の子と交流を持ちたいと言っていた
- ・ 分からないことも多く、気を使いすぎていて気まづくなっていた事に気が付いた
- ・ 比べるのではなく、個人をみていきたい
- ・ 障がい者を少し身近に感じる事ができた
- ・ 本人だけではなく、家族にも社会的理解や支援が必要だと思った